

地域の自主防災組織

自主防災組織とは

災害の時、消防が来るまで何もしないのではなく、自分の命を守るために力を合わせるほうが、本来あるべき姿です。

災害に対して人々が協力し、「自分たちの地域は自分たちで守ろう」と考えて、地域の人々がまとまった組織が、「自主防災組織」です。



自主防災組織の活動に参加しよう

地域には町内会や小学校区、老人会などが自主防災会を構成していることが多いものです。市町村の広報などを通して地域で行われる防災訓練について知り、積極的に参加しましょう。

消火器やAED(自動体外式除細動器)の使い方などを学ぶこともできます。

自主防災組織の活動内容

防災知識の広報・啓発

地域の行事やイベントの中で、防災を意識づける機会づくりをしたり、防災知識に関するチラシやパンフレットを作成、配布したりします。自主防災組織の役割分担や活動内容の紹介も行います。

防災訓練

防災計画に基づいて地域の防災訓練を行い、必要な知識・技術の習得をはかります。内容は情報収集伝達訓練、消火訓練、避難訓練、救出救護訓練、給食給水訓練など多岐にわたります。また、地域の祭りや運動会など防災と直接関係のないイベント等において、災害時に役立つプログラムを取り入れるなどの工夫も行われています。

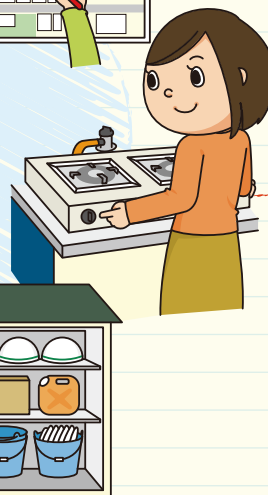


地域の危険箇所の把握

地域内を巡回したり市町村の作成したハザードマップを活用して、洪水、かけ崩れなど地域の危険箇所や、ブロック塀の安全などの実態把握を行っています。地域の災害履歴や伝承などを調べ、予防・応急活動に活用することもあります。

火気使用設備器具等の点検

家の中には、火を使う設備器具や、スプレー缶等可燃性の危険物品が多数あるものです。自主防災組織として「点検の日」を設定するなど、各家庭で一斉に点検するよう指導します。



防災資機材等の備蓄

消火、救出救護など様々な役割を果たすためには資機材が必要です。普段から備蓄、整備を行っています。

情報収集・伝達用

ハンドマイク・携帯用無線機・携帯用ラジオ等

救出・救護用

パール・はしご・ジャッキ・担架・救急セット・救命ボート等

給食・給水用

炊飯装置・鍋・コンロ・給水タンク・ろ水装置等

初期消火用

消火器・水バケツ・砂袋・ヘルメット・防火衣等

避難用

リヤカー・発電機・簡易トイレ・寝袋・組み立て式シャワー等

防災ボランティア

災害時には全国からボランティアの人々が被災地に集まってきて、様々な活動を支援してくれます。自主防災組織とボランティアが連携し合ったほうが、被災地の復旧を早めることができます。また、実際に被災地に行かなくとも、義援金を送ることも立派なボランティア活動の一つと言えます。

自主防災組織の活動は大切です。しかしそれぞれの組織が単独で活動するよりも、連携し合ったほうがいっそう効果は上がります。また地域には、学校、工場、店舗、老人ホームなど、さまざまな施設があり、これらの施設とも連携協力が必要です。このように、地域全体で防災に取り組む「防災協働社会」の実現が必要となってきています。

次のページへ